

2020年7月1日  
67号

# かけはし

ひたちなか総合病院広報誌

発行所 株式会社製作所ひたちなか総合病院  
〒312-0057  
ひたちなか市石川町20番1  
TEL 029 (354) 5111  
発行人 飯嶋 和 秀  
編集 広報委員会  
<http://www.hitachi.co.jp/hospital/hitachinaka/index.html>  
※バックナンバーは当院ホームページに掲載しております。

## ごあいさつ — 地域を護る病院として —



院長 吉井 慎一

2020年8月、今年には戦後初めて、全国高等学校野球選手権大会のない夏を迎えます。新型コロナウイルス感染症も

第1波は一部の地域を除いて新規患者数0が続き、茨城県では5月14日、全国的には5月25日、緊急事態宣言が解除されました。皆様におかれましては、自粛生活を含め、体調を崩した方が多かったのでと心配しております。

新型コロナウイルス感染症は、ウイルスとしての性質はまだまだ不明なことが多く、特効薬もワクチンも世界中で開発途中です。一方、この数ヶ月間の世界の感染状況から、疫学的な分析は一部されています。皆様もご存じのように世界的にみて、日本は人口当たりの感染者数は少なく、特に死亡者数は群を抜いて低いことが挙げられます。PCR検査数が先進国の中では断トツに低いことはありますが、諸外国のように強制的にロックダウンができない状況のなかで、これは世界でも驚きの事実です。日本の対策が本当に評価されるのは、科学的裏付けがはっきりしてからですが、死亡者数が少ないのは事実です。ニュースや報道番組では、日本の医療体制が優れている、医療従事者の

献身的ながんばりの上でのことと、「医療従事者、医療現場に感謝」のメッセージが多くなっています。当院でも多くの方から励まし・感謝のメッセージをいただき、大変ありがたく思っています。

ここで、昨年末までの日本の医療状況を振り返ってみます。日本は2025年の人口構成・医療需要から予測して、「地域医療構想」を掲げ、2020年はそれを本格的に推進する年でした。効率のよい医療を行うことで、右肩上がりの医療費の伸びを抑えることが目的でした。しかし、今回のような感染症の流行に対しては非常に脆いこともはっきりしました。日本全国、特に人口の多い地域で、ぎりぎりの病床数であったら大変な事態になっていたでしょう。この国の医療体制について、もう一度本気で議論することが必要です。中長期医療計画のなかに、医療の効率化と非常時の医療体制を共存できるシステムを構築することが必要です。

緊急事態宣言解除後は、大都市や近隣を中心に、感染者数が再び増加し、秋冬のインフルエンザシーズンに大きな第2波が来る可能性があります。当院は緊急事態宣言解除後も、基本的な感染対策を継続していきます。その上で「地域を護る病院」としての救急医療、がん医療等、本来の重要な医療が十分に提供できるよう努力していく所存です。今後、ますますのご支援、よろしく願いいたします。

## ひたちなか総合病院・総合健診センター休日のお知らせ

7月		8月		9月		10月																																																																																			
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土																																																																					
			1	2	3	④							①				1	2	3	④	⑤																																																																				
7	⑤	6	7	8	9	10	⑪	8	⑫	13	14	15	⑬	⑭	⑮	9	⑯	20	21	22	23	24	25	⑯	20	21	22	23	24	25	⑰	⑱	20	21	22	23	24	25	⑲	20	21	22	23	24	25	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿													
月	⑫	13	14	15	16	17	⑮	月	⑯	20	21	22	⑲	20	21	22	23	24	25	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿																							
	⑮	16	17	18	19	20	21	22	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿																			
	⑲	20	21	22	23	24	25	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿									
	⑲	20	21	22	23	24	25	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿									
	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿

■はひたちなか総合病院休日 ○は総合健診センター休日



## 歯科口腔外科



歯科口腔外科医 今井 英樹

歯科口腔外科と聞いてあまりなじみのない方も多いかと思いますが、当科では顎骨を含んだ口腔内の病気の外科的な治療、かかりつけ歯科医院の先生では対応困難な治療の相談に応じ、診療を行っています。代表的なものとしては埋伏している親知らずの抜歯や、さまざまな要因で抜くことが難しい歯の抜歯があります。その他、口腔腫瘍、歯性炎症、嚢胞、歯牙・顎骨・軟組織の口腔外傷、口腔粘膜疾患、顎関節疾患などを扱っています。また、歯科インプラント治療にも一部対応しています。虫歯の治療や義歯の作製等の一般的な歯科治療は原則行っておりません。

歯科に関連する病気には口の中だけではなく、全身に影響を及ぼすものもあります。口の中の病気の早期改善が、健康な生活を送るうえで必要と考えております。

近年は複数の診療科との連携が必要な全身疾患（循環器疾患・血液疾患・膠原病など）を有する患者さんが増えており、入院下での管理のもとで治療を行ったり、他科と連携しながら治療を行ったりして安心して診療を受けていただけるようにしています。

また、当院はがん診療連携拠点病院であり、院内の各科から紹介を受けてがん治療、緩和ケアの患者さんの周術期口腔機能管理を行い、円滑な治療が行われるようにサポートしております。

当科は日本口腔外科学会認定医療機関で1名の口腔外科専門医を含む3名が常駐しており、各診療内容について日々対応しておりますが、当科で対応困難な更に高度な治療を必要とする症例に関しましては、東京医科歯科大学歯学部附属病院口腔外科や筑波大学附属病院歯科・口腔外科の協力を得て速やかに紹介できるように努めております。

2019年度の当科の手術件数は304件で、ほとんどが全身麻酔下での手術となっております。

今後も感染対策を含め安全への配慮を徹底し、地域の皆様に安心して受診していただけるよう努めていく次第です。



歯科口腔外科医&スタッフ

## ナースにインタビュー

認定看護師は院内外でどんな仕事をしているのでしょうか？

緩和ケア認定看護師の神谷さん、友部さんにインタビューしました。



### Q. 緩和ケア認定看護師をめざしたきっかけを教えてください。

神谷 がんの痛みが強く苦しんでいた患者さんを看護していて、もっと痛みを緩和してあげたい、どうすればいいのか、根拠を持って看護をしたいとずっと考えていて、資格取得の機会をいただき、挑戦することにしました。

友部 患者さんやご家族の希望をなぜ叶えてあげられなかったのだろうという疑問を持ち、患者さんやご家族に後悔してほしくないと思うようになりました。気持ちを引き出し、その思いを叶えるために、緩和ケアの知識を学びたいと思ったのがきっかけです。

### Q. 認定看護師として心がけていることややりがいは？

神谷 患者さんやご家族、スタッフと一緒に考え、伴走するように看護をするということを心がけています。患者さんやご家族から「話を聞いて貰えてからすごくほっとした」と言ってもらえた時には、少しでも力になれたのかなと、嬉しく感じます。

### Q. 地域医療を守る看護師として一言お願いします！

神谷 当院だけでなく、他院に通院されている患者さんやご家族、またはがんの患者さんに携わっている医療・介護従事者の方々、ご相談がある方はぜひご連絡ください!!

### Q. 資格を活かしてチャレンジしたい事はありますか？

神谷 緩和ケアはがんと診断された時から始まり、患者さん自身がどう生活していきたいか、そのためにどうすればいいのかを、患者さんと一緒に考えていきます。そして、患者さんの辛さや苦しみに寄り添い支えられるスタッフを育てられるように、これからも教育を続けていきたいです。そして、患者さんやご家族に携わる医療従事者みんなで相談をしながら、自分らしく生活するための手助けをしていきたいです。

友部 患者さんが退院後も自宅で継続して緩和ケアが受けられるように、地域の医療・介護に携わる方々への研修を今後も行っていきたいです。患者さんやご家族と一緒に支えていければ嬉しいです。

看護師の各部署の様子は、ひたちなか総合病院ホームページ内「Hi☆Tachiなか」に掲載していますので、ぜひご覧ください★

## 地域の先生紹介

## 富士山内科クリニック

当院は院長 山形昭英がひたちなか市（当時の勝田市）に昭和54年に開業し、以来約40年間、地域医療の一旦を担わせて頂いております。

現在は副院長の山形俊昭が診療を行っておりますが、専門はリウマチ膠原病で、その他一般内科のプライマリーケアをさせて頂いております。

皆様ご存じのように、茨城県は他県と比べ医師の数が少ない県であり、リウマチ医も御多分にもれず絶滅危惧種？となっておりますが、幸いひたちなか市は日立製作所ひたちなか総合病院にリウマチ膠原病センタが存在してくださっており、また、すべての領域の疾患において、地域の先生方が迅速にご対応くださり、いつも助けて頂いております。

このような恵まれた環境の中で仕事ができることを本当に幸運に思いますし、周囲の皆様へ感謝致す次第です。この場を借りて心より御礼を申し上げます。

これからも地域の患者様そして先生方のお役に少しでも立てるよう尽力していく所存です。

関節リウマチや膠原病疾患を疑う患者様がおられましたらどうぞお気軽にご相談ください。これからもご指導ご鞭撻の程、宜しくお願いたします。



副院長 山形 俊昭



## 医療連携に関するお問い合わせは地域医療連携推進センタへ

8:15~16:30 (月曜日~金曜日)

TEL 029-354-5202 (直通)

FAX 029-354-5220 (直通)

## 新型コロナウイルス院内感染防止のため、ご協力をお願い致します

### 【来院時のお願い】

ご来院頂く際、下記の事項にご協力下さい。

- 「**マスク着用**」及び「**手指消毒**」の実施
- 病院入口または総合案内での「**体温測定**」
- 面会希望時の、総合案内での「**面会票**」の記入

### 【面会制限について】

2020年6月15日（月）より、面会制限を一部緩和しております。

- 診療日の**13:30～16:30**（入室時間）

**休診日は原則禁止**

- ご家族**1名**、**1日1回**荷物受渡し程度の短時間

※面会対象者：配偶者・両親・子ども（13歳以上）・兄弟姉妹

以下に該当する方は「**面会禁止**」とさせて頂いております。

- 37.5℃以上の発熱・せき・鼻水等の症状のある方
  - 職場・家族・友人等に新型コロナウイルス感染症陽性者がいる方
  - 北海道・東京・神奈川・埼玉・千葉へ往来（経由含む）した方
- ※変更が生じる場合は、当院ホームページに掲載いたします。



## 新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」における熱中症予防

新型コロナウイルス感染防止の3つの基本である①身体的距離の確保、②マスクの着用、③3密（密集・密接、密閉）を避けるなどの「新しい生活様式」が求められているこの夏、熱中症予防行動のポイントをおさえておきましょう。

### ①暑さを避けましょう

- 冷房をつけていても、換気扇を回したり、窓を開放したりして換気
- 室内の温度が上昇しすぎないように、エアコンの温度設定を調整
- 暑い日や時間帯は、無理をしない、また、急に暑くなった日は特に注意

### ②適宜マスクをはずしましょう

- 屋外で2メートル以上の距離を確保できる場合には、マスクを外す！

### ③こまめに水分補給しましょう

- のどが渇く前に、1日1.2Lを目安に、汗をかいたときには、塩分補給

### ④日頃から健康管理をしましょう

- 体調が悪い時は、無理せず自宅静養

### ⑤暑さに備えた体づくりをしましょう

- 熱くなり始めの時期から、適度な運動を心がけ、体を暑さに慣れさせて！（無理せず毎日30分程度）

今年7～10月に関東甲信の1都8県で、熱中症の危険性が高まった際に、暑さ指数による「熱中症警戒アラート」が発信される予定です。今後さまざまな対策が更新されることと思います。新たな情報を適宜取り入れて、熱中症を予防しましょう。

\*環境省・厚労省の熱中症予防行動より引用

### ◆◆◆ 医師異動の紹介 ◆◆◆

診療科	氏名	異動日
内科	長友一樹	退職(2020. 6. 30)
小児科	村長靖	退職(2020. 4. 30)
臨床研修医	長谷川 瑛里	退職(2020. 5. 31)
	石山 ゆり	退職(2020. 6. 30)
	山崎 春佳	退職(2020. 6. 30)